

英語を使って楽しくコミュニケーションする児童の育成を目指して

～教師も児童も Let's enjoy English!～



釧路市立釧路小学校 川崎 民子

■はじめに

釧路市立釧路小学校は平成20年4月に市内の3校が統合して生まれた学校である。統合校の旧柏木小学校が文部科学省より委託された「小学校における英語活動等国际理解活動推進事業・拠点校」の活動を継承しつつ、統合という特殊な環境の中で「英語活動の体験がない児童や、英語を苦手とする教師でも、無理なく楽しく進められる英語活動の構築」と「職員全体が英語活動についての理解を深め、誰もが英語活動を進めることができる環境づくり」を目指して全職員で英語活動に取り組んできた。拠点校の役割は平成20年度で終了したが、今年度よりさらに2カ年の計画で英語活動の充実を目指し取り組んでいる。

1 ■教師の「英語の壁」を打ち砕くために

小学校の多くの教師がそうであるように、取り組み当初の本校職員も英語に対する苦手感、不安感を大きく感じていた。楽しい英語活動の授業の組み立てをするために、まず、教師自身の感じている「英語の壁」を取り除き、英語活動の楽しさを共有することの必要を感じた。そこで、昨年度前半は模擬授業の実施や歌、ゲームなどのアクティビティーの演習を中心に研修を行い、教師自身の英語活動の体験を増やすことに努めた。また、先進校から講師をお招きして言語獲得のメカニズムという視点で小学校での英語活動をどう捉

えるべきかということを具体的な教材を見せさせていただきながら学ぶ機会を設けた。

教師自身の体験が増えるにつれ、「できることからまずやってみよう！」という機運が高まり、それまではALTにお任せであった授業が担任主導で進むようになった。また、実施した活動についての学年・学級の枠を超えた感想や情報交流も盛んに行われるようになった。現在は教師一人一人が、授業に生かすためにクラスルームイングリッシュを取り入れる工夫（教卓に貼る、教室に掲示するなど）をしたり、有志が集まって勤務時間終了後に英会話レッスンに参加するなどして英語のスキルアップを目指している。

2 ■楽しい英語活動の授業づくりを目指して

本校では低学年が年間10時間、中学年15時間、高学年35時間、特別支援学級10時間を英語活動に充てている。児童が英語を使って楽しく活動する授業展開を目指し、活動内容の研鑽に努めてきた。

①チャンツ・絵本の利用

メトロノームを使う、CDの曲に合わせて、キーボードのリズムを使って、など担任はそれぞれがお気に入りのチャンツのパターンを開発して授業に取り入れている。研修の時間を利用してお勧めチャンツの交流も行っている。

②絵本の活用

絵本の読み聞かせを取り入れ、特に低・中

学年で児童の反応に手ごたえを感じている。繰り返しフレーズのある作品や既習単語が多く出てくる作品やストーリーが理解しやすい作品で良い反応が見られ、英語のインプットに効果的であると考えている。



③コミュニケーションを意識したアクティビティー

活動の中では英語を使ってコミュニケーションするアクティビティーを取り入れている。相手は担任やALT、友だちどうし…と活動内容や児童の発達段階に応じて設定するが、どの場合もコミュニケーションの楽しさを十分感じることができるよう配慮している。

5年生の実践「ランチメニューを作ろう」の中の「店員さん。注文ですよ!」では、児童は店員さんとコックさん、お客さん役に分かれて、注文を受けたりそれを厨房のコックさんに伝える活動をする。その中で“What would you like?” “What do you want?” の2つの言い方をシチュエーションに合わせて使い分けを目指す。“Here you are.” “Thank you.” “You’re welcome.” のやり取りも自分の役割に合わせて使われていた。実践当日は公開研究会ということもあり、参観者もお客さん役になっていた。児童は生き生きと役割をこなし大変楽しそうであった。



④『英語ノート』の活用

5・6年生の35時間ずつの活動はおおむね『英語ノート』に沿った形で進められており、指導資料をもとに授業を組み立てている。

6年生の実践「将来の夢を紹介しよう」では、単語の練習に巻末のカードを利用してビ

ンゴゲームやキーワードゲームをした。自分の将来の夢の紹介では、『英語ノート』にスピーチメモを作成したり、友だちのスピーチをメモしたりして活用している。また、デジタルコンテンツを毎時間活用することで、授業の活性化に役立てることができた。デジタルコンテンツは高学年の全クラスで利用されており、英語活動の大きな支えとなっている。

3 ■ 英語環境の充実を目指して

英語に親しむ機会を増やすために英語表示物の充実を目指し、給食の時間や休み時間を利用してALTやJETと触れ合う時間を設けている。また、毎週金曜日を英語の日としており、この日は教師も児童も“Good morning.”で始まり“See you.”で終わる1日を過ごす。教師は「今週のクラスルームイングリッシュ」を使う努力をし、出席を英語で取るクラスや、休み時間に英語の歌を流すクラスもある。職員室内でも英会話ならぬ英単語コミュニケーションが生まれ、金曜日は笑い声が絶えない1日である。

■ おわりに

本校では「誰もが無理なく楽しく進められる英語活動」を合言葉に研究を進めてきた。全校で英語活動に取り組むことで、教師集団が同じ不安や悩みを共有し、その中で一人一人が小さな努力を積み重ね、少しずつではあるが英語活動の形が整ってきているのを感じている。そのような中、この夏、本校に新しいALTが着任した。身振り手振りも交えて一生懸命コミュニケーションしようとする教師の姿から、きっと子どもたちは新たな刺激を受けるに違いない。児童も教師も英語に触れることを楽しむことができるよう、今後も研究を進めていきたいと思う。Let's enjoy English!